

これくしょん・ぎやらりに

2010年4月17日(土) ▶ 6月20日(日)

阿部貞夫 彫波の世界

Sadao Abe's Woodblock Prints : Carved Images on Wood

阿部貞夫は、1910(明治43)年、東京日本橋に生まれ、生後まもなく留萌に移り住み、旧制留萌中学(現・留萌高等学校)を卒業します。画家をめざして上京し、アルバイトで生活費を得ながら、本郷洋画研究所で学び、後に木版画を独学するようになりました。

終戦後、留萌に帰り、病身の妻を看病しながら製材所で働き、留萌の風物に取材した版画を制作します。少年時代また戦後の8年間を過ごした留萌は、阿部にとって故郷といえる場所でした。1946(昭和21)年から4年間で100点以上の版画を制作したといい、1950(昭和25)年には、最初の本版画集を発刊しています。四季折々の風

物を白黒版画にした版画集は、阿部の版画家としての第一歩でした。1952(昭和27)年には、第二の本版画集『彫波』(彫波とは、版木の上の刀跡を意味する言葉)を発刊しています。

1953(昭和28)年、釧路に移り、版画家・関野準一郎、刷師の平井孝一の指導を受け、版画家として大きく飛躍し、釧路の街や道東の自然を題材とした版画作品を制作していきます。1958(昭和33)年には札幌に拠点を移し、北海道各地の自然を題材とした作品を制作しました。阿部貞夫の生み出した詩情豊かな作品の数々をご覧ください。できれば幸いです。

No.	作品名	制作年	技法・材質
1	港暮色(留萌港)	1951(昭和26)	木版・紙
2	立秋	1952(昭和27)	木版・紙
3	雪花	1952(昭和27)	木版・紙
4	鯨沖揚	1955(昭和30)	木版・紙
5	セトナの祈り	1957(昭和32)	木版・紙
6	樹と人	1957(昭和32)	木版・紙
7	摩周湖	1957(昭和32)	木版・紙
8	釧路川の夕映	1958(昭和33)	木版・紙
9	釧路大観	1958(昭和33)	木版・紙
10	燈台	1958(昭和33)	木版・紙
11	糠平湖	1958(昭和33)	木版・紙
12	祭の朝	1960(昭和35)	木版・紙
13	森の鳥	1961(昭和36)	木版・紙
14	汀	1962(昭和37)	木版・紙

No.	作品名	制作年	技法・材質
15	海門	1962 (昭和37)	木版・紙
16	森の湖	1962 (昭和37)	木版・紙
17	樹海	1962 (昭和37)	木版・紙
18	黎明	1962 (昭和37)	木版・紙
19	新雪のロッジ	1962 (昭和37)	木版・紙
20	新雪の橋	1963 (昭和38)	木版・紙
21	霧氷の街	1964 (昭和39)	木版・紙
22	林	1964 (昭和39)	木版・紙
23	恵庭の残照	1964 (昭和39)	木版・紙
24	燻魚	1964 (昭和39)	木版・紙
25	残照	1965 (昭和40)	木版・紙
26	岳明	1965 (昭和40)	木版・紙
27	阿寒富士	1965 (昭和40)	木版・紙
28	摩周	1966 (昭和41)	木版・紙
29	月待つ浜	1966 (昭和41)	木版・紙
30	港暮色	1966 (昭和41)	木版・紙
31	黄金岬の夕照	1966 (昭和41)	木版・紙
32	峠	1966 (昭和41)	木版・紙
33	樹海	1966 (昭和41)	木版・紙
34	大通りの春	1967 (昭和42)	木版・紙
35	幌都秋色	1967 (昭和42)	木版・紙
36	下曳	1967 (昭和42)	木版・紙
37	羊蹄明ける	1967 (昭和42)	木版・紙
38	中山峠の羊蹄	1967 (昭和42)	木版・紙
39	トドワラの花 (小)	1967 (昭和42)	木版・紙
40	歓喜	1967 (昭和42)	木版・紙
41	羊群	1967 (昭和42)	木版・紙
42	水郷暮情 (滝川公園)	1968 (昭和43)	木版・紙
43	さい果ての灯	1968 (昭和43)	木版・紙
44	北辺の樹群	1968 (昭和43)	木版・紙
45	ポプラ	1968 (昭和43)	木版・紙
46	山明ける	1968 (昭和43)	木版・紙